

相馬市成人式

市成人式は1月9日、市民会館で行われ、晴れ着やスーツ姿の新成人が大人の自覚と責任を胸に式に臨みました。

今年成人を迎えた、平成13年4月2日から同14年4月1日生まれの281人が式に参加。

新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、マスク着用や入場時の検温、座席指定による距離の確保、式典の時間短縮などの対策を行った上で実施しました。

成人式の司会を務めたのは、福島陽斗さん。

式で立谷市長は「震災当時8歳か9歳だった皆さんが成人を迎えたこと嬉しく思います。この11年間のしっかりと歩みに対して、市長として心から御礼と尊敬の念を表したいと思います。大人になることは我慢を覚えることです。成人を迎えた皆さんには、社会人生活や学生生活の中で我慢することを覚えてがんばってほしい。どうぞこれからも活躍し、我々にとつての誇りになってください」と新成人を祝いました。

新成人を代表し、木村彩華さんが新成人としての決意を述べました。

新成人たちは、久しぶりに顔を合わせた友人と写真を撮るなど、再会を喜び合いました。



新成人代表あいさつ 木村彩華さん

私たちは二十歳という人生の大きな節目を迎え、職に従事している者もいれば、学業に励んでいる者もいます。立場はそれぞれですが、一人一人が自己実現のために日々奮闘しています。こうして今、無事に成人式を迎えることができたのも、困難を共に乗り越えてくれた友人や親身になって指導してくださった恩師や地域の方々、そして何より一番そばで支えてくれた家族のおかげです。この場を借りて、感謝申し上げます。

現在、私は社会福祉士の知識も持った介護福祉士になるという目標を叶えるために、日々勉学に励んでいます。介護福祉士は、高齢者だけではなく、障がいのある方の支援も行います。私が今、抱いている思いは、知的障がいのある方も地域住民の一人として存在できる地域づくりをしたいということです。知的障がいがあったとしても本人の意思はあり、したいことや欲し

いものを、言葉ではなく体を使って表現することがあります。その表現が気になることもあるとは思いますが、それを「おかしい」「子どもみたい」「珍しい人」という捉え方をしないでほしいです。私は、本人の多様な表現から意思をくみ取り、言葉に変えていく関わりをできるようにするほか、そうした表現方法の理解を求め、知的障がいのある方も一人の住民であることを受容してもらう取り組みをしていけるような介護福祉士を目指して、これからも勉学に励んでいきたいと思っています。

私たちは本日、大人への第一歩を踏み出しました。まだまだ未熟な私たちですが、これから温かい目で見守り、ご指導ご鞭撻のほどよろしくお願い申し上げます。

最後になりますが、これまで支えてくださった方々への感謝の気持ち、ここ相馬市で育った誇りを胸に、これから先何十年と続く人生を歩んでいこうと思います。

※あいさつの一部を抜粋して掲載しています。

大人の自覚を胸に



- ①・③再会を喜ぶ新成人たち
- ②写真を撮る新成人たち
- ④新成人を代表しあいさつを行った木村さん
- ⑤新成人たちにあいさつする立谷市長
- ⑥国歌静聴する新成人たち
- ⑦司会を行った福島さん

成人式当日の様子は、
YouTubeでご覧いただけます。

